

発電所ニュース

緊急時の対応訓練を実施しました（2月15日）

- ◆地震の影響で全ての電源が失われたとの想定で、訓練を行いました。
- ◆訓練では、事故収束に向けた対応、関係個所への情報発信、本社や新潟本社の緊急時対策本部との連携などについて確認を行いました。



免震重要棟内（緊急時対策室）での訓練の様子

- ◆実際に自治体に社員を派遣し、FAXでの通報文やタブレット端末等を使って自治体職員に事故の状況をタイムリーに伝える訓練も行いました。



自治体の職員へ事故の状況を説明する当社社員（刈羽村役場）

春休みイベントを開催します

参加費無料

ウルトラサイエンスショー

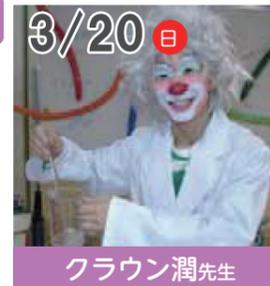
予約不要

3/20日 27日 開催!

科学の面白さを楽しみながら解りやすく見せるお客様参加型のサイエンスショー!

午前の部 10:30~11:00

午後の部 13:30~14:00



クラウン潤先生



アインシュタインラボ

発電所構内ガイドツアー

構内を車でぐるっとひとまわり!

要予約

1便 10:30~ 2便 11:30~

3便 13:30~ 4便 14:30~

各回40分 毎週土・日・祝開催!

※当日は開催時間の30分前までに受付で手続きをお済ませください。ご本人様確認のため運転免許証または住民基本台帳カード（顔写真付）が必要となります。当日、コピーを取らせていただきます。

春休み限定工作教室

予約不要

誰でも簡単に作れる工作教室!

各日 9:00~16:30

26日

3/19日 21日 祝
オリジナルエコバッグ作り

光る粘土キーホルダー作り

27日
ペーパークラフト教室

※写真はイメージです

<お申し込み・お問い合わせ>
発電所サービスホール

0120-344-053
(9:00~17:00)

3/26・27はガラポン抽選会を開催いたします! (小学生以下対象)
イベント期間中 (3月19日~21日、26日、27日) はスタンプラリーも開催!

編集者の今月のひと言

この「ひと言」を書いている今日は3月11日。福島第一原子力発電所の事故から5年。皆さまに大変なご心配をおかけし続けておりますことを、あらためて心よりお詫び申し上げます。発電所では、地域の皆さまにご心配をおかけすることのないよう、約7,000人が心をひとつに、安全性向上に全力で取り組んでいます。

私は、ご迷惑をおかけしている福島の方々の思いを抱きながら、できることを一つひとつ重ねていきます。

(立)

料金受取人払郵便

郵便はがき



差出有効期間
平成29年8月31日まで

(切手不要)

柏崎市青山町16番地46
東京電力株式会社
柏崎刈羽原子力発電所
広報部 行



差し支えなければご記入ください

ふりがな

お名前 年齢 歳 男・女

ご住所〒

お電話番号

ご記入いただきました個人情報については、質問などへの回答、紙面づくりの参考以外には使用いたしません。

(2016年3月号)



今年も、山菜の季節がやってきたね(ハハ)

2016年3月19日 (H27-R-12)
編集発行責任者
柏崎刈羽原子力発電所 広報部企画広報グループマネージャー
〒945-8601 柏崎市青山町16番地46 ☎0120-120-448 (平日 9~17時)

発電所の情報発信

さまざまな方法で発電所の状況をお伝えしています。

<FMピッカラ> (76.3MHz)
「TEPCOトピックス」に
発電所の職員が出演中!
月～金曜日: 12:50～
17:25～
土・日曜日: 10:50～



<ホームページ>
<http://www.tepco.co.jp/kk-np/index-j.html>



<メールマガジン>
メルマガ「エコロンクラブ」
で説明会情報なども発信中!
※ホームページから登録できます
<http://www.ecoronclub.jp>



1. 今月号の中で興味をもった内容をお聞かせください。(複数回答可)

2. ニュースアトムで今後紹介してほしい内容があればお聞かせください。

3. ニュースアトムおよび発電所に対するご意見・ご質問があればお聞かせください。

皆さまからの声

皆さまからいただいた
たくさんのご意見の中から
一部をご紹介します。



いただいたご意見は、
発電所の運営に活かしてまいります。

- ◆環境などの点、地域社会の経済の点を考えると、原発全面反対とは言いにくい、安全であることが絶対条件。子のためにも安全対策をお願いします。
- ◆緊急時の対応能力を向上して欲しい。テロを含む想定外の訓練を積むようお願いしたい。
- ◆安全性向上に向けた様々な取組を行っているのに、ケーブル敷設の問題等が発生すると、心配になる。
- ◆社内マニュアルに炉心溶融の判定基準があった、という件は非常に残念。しっかり調査してください。
- ◆福島第一原子力発電所事故の教訓をふまえて、一層の安全対策につとめてください。
- ◆放射線シリーズの「ヨウ素剤」に関する説明が分かりやすかった。これからも、一般の人の理解が深まる解説をお願いします。

発電所従業員データ (2月1日現在)

- 柏崎刈羽原子力発電所で現在働く人は、898人です。
- 内訳

<東京電力> (人)			<協力企業*> (人)		
県内	柏崎市	841	県内	柏崎市	2,437
	刈羽村	84		刈羽村	219
	その他	122		その他	1,292
県外		129	県外		1,774
<合計>		1,176	<合計>		5,722

※ 登録人数を計上
(2月1日の構内入構者数は3,710人)

福島第一原子力発電所事故当時の通報・報告状況について

～第三者検証委員会による検証を進めてまいります～

- ◆ 福島第一原子力発電所の事故から5年が経過しましたが、未だ、福島県の皆さまをはじめ、広く社会の皆さまに大変なご心配とご迷惑をおかけし続けていることを、あらためて心よりお詫び申し上げます。
- ◆ 当社は、新潟県技術委員会で論点となっている「事故当時の情報発信」について社内調査を進める中で、当時の社内マニュアル上に、「炉心溶融」を判定する基準の記載があったことを確認し、2月24日に公表しました。
- ◆ 県技術委員会に事故当時の経緯を説明する中で、当時の社内マニュアルの記載を十分に確認せず、「炉心溶融を判断する根拠がなかった」という誤った説明をしておりました。深くお詫び申し上げます。
- ◆ 事故当時の炉心状況に関する通報・報告状況(例: 1号機)は以下のとおりです。

2011年 3月14日	早朝	格納容器内の放射線量を監視する計器が回復 → 格納容器内の放射線データ計測を開始
	7時18分	炉心損傷割合(55%)を国・自治体等に報告
2011年 5月15日		炉心溶融について公表 「これまで測定されたデータや事故解析コードにより、炉心は一部が溶融していると推定」

- ◆ 他方、その他の通報・報告内容の調査において、津波襲来直後に、より速やかに通報・報告できた可能性のある事象があることを確認しました。
- ◆ 当時の社内マニュアルに則って炉心溶融を判定・公表できなかった経緯や原因、および当時の通報・報告の内容等につきましては、今後、「第三者検証委員会」(3月9日設置)にて検証を進めていただきます。

発電所トピックス

免震重要棟の放射線防護を強化しています

緊急時の活動拠点となる免震重要棟では、これまでに建物内の放射性物質による汚染拡大防止や対応要員の被ばく低減のため、窓への遮へい材(鉛板のカーテン)の設置などを行ってきました。

現在、遮へい壁の設置や可搬型空調設備の設置などの追加工事を行っています。

これらの対策により、緊急時における対応要員の被ばくの更なる低減を図ります。

免震重要棟



遮へい壁
(高さ約3.8mの鉄筋コンクリート製)

ケーブル敷設の不適合について

中央制御室の床下などで、安全系のケーブルと一般系のケーブルが適切に区分されず、混在して敷設されていた問題につきましては、ご心配をおかけしております。あらためてお詫び申し上げます。

調査結果ならびに原因と対策について、1月29日に国に報告しました。

主な原因

- ケーブル敷設で、一般系で発生したトラブルが安全系に波及するリスクに対して注意が払われず、区分管理が十分に行われていませんでした。
- ケーブル工事においては、信号の入力と出力を確認しているものの、敷設ルート計画や敷設状況について当社が直接確認していませんでした。

組織的な要因と再発防止対策

要因	再発防止対策
設計管理のプロセスに不備があった	<ul style="list-style-type: none"> ・基準や例示を設計管理プロセスに明確化。 ・リスクを判断できるエキスパートを配置。その確認をプロセスに取り込む。 ・施工図面、施工結果を当社が直接確認。全体として問題ないかを確認。
教育の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・発電所員、協力企業の監理員への教育を実施。 ・体系的な教育訓練で、技術力向上と原子力安全のエキスパートを育成。
継続的な検証の弱さ	<ul style="list-style-type: none"> ・工事完了後も、現場の状態を直接観察。 原子力安全上の問題が長期間放置されないようにする。

- ◆3月10日現在、順次正常な状態に是正する作業を行っています。
* 5・6・7号機中央制御室の床下は完了 * それ以外は順次、是正作業中

6, 7号機の新規制基準への適合性審査の状況 (3月10日現在)

現在、新規制基準への適合性について、原子力規制委員会の審査を受けています。

◆プラントの審査状況 (審査会合: 74回、現地調査: 1回)

	主要な審査項目	審査状況
設計基準対象施設	外部火災(影響評価・対策)	実施中
	火山(対策)	実施中
	竜巻(影響評価・対策)	実施中
	内部溢水対策	実施中
	火災防護対策	実施中
	確率論的リスク評価	実施中
重大事故等対処施設	有効性評価	実施中
	解析コード	実施中
	制御室(緊急時対策所)	実施中
	フィルタベント	実施中

◆地震・津波などの審査状況 (審査会合: 28回、現地調査: 3回)

	主要な審査項目	審査状況
地質・地盤	敷地周辺の断層の活動性	実施中
	敷地内の断層の活動性	実施中
	地盤・斜面の安定性	実施中
地震動	地震動	実施中
津波	津波	実施中
火山	対象火山の抽出	実施中

審査会合の実施状況・審査会合資料は発電所ホームページに順次掲載しています。
<http://www.tepco.co.jp/kk-np/data/shinsakaigou-j.html>
 (柏崎刈羽原子力発電所>公表資料・データ>新規制基準適合性に係る審査会合実施状況)

「ふれあいトークサロン」を開催しました

- ◆発電所の安全対策の見学会とカルチャー教室をセットにした特別企画「ふれあいトークサロン」を開催しました。(2月7日～27日)
- ◆カルチャー教室では「背骨コンディショニング」や「フラエクササイズ」などといった体を動かすもののほか、「和菓子作り」や「コケ玉作り」などを行い、たくさんの方にご参加をいただきました。
- ◆トークサロンでは、参加された方から発電所へのご意見、ご質問などを自由にお伺いし、発電所の女性社員が、自分の言葉としておこたえさせていただきました。
- ◆「安全がしっかり確保できれば良いが、福島を考えると不安になる」「発電所の取組状況が分かり、勉強になった」といったご意見をいただきました。



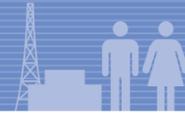
トークサロン (2月11日)



背骨コンディショニング (2月11日)



安全対策の説明 (2月7日)



発電所の一員として

KASHIWAZAKI KARIWA NUCLEAR POWER STATION

Close-up Person vol.1

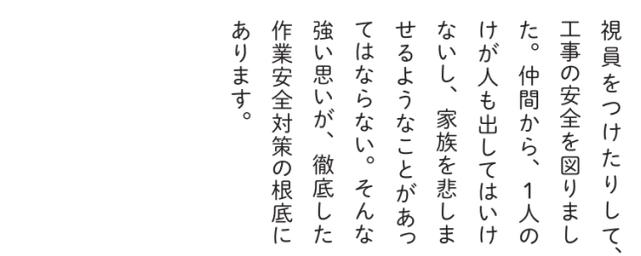


巨大な防潮堤の前で「すべての壁が繋がったときは嬉しかったですね」と田上義彦さん

電力の担当者に現場まで来てもらい、既設の構造物の扱いについて細かく協議しました。何かあったら立ちどまり、発注者と協議するのは当然のことです。杭打ちの開始は1月。海が荒れた日も多かったです。多い日は200人も作業員が行き来する現場だったので、作業員の安全確保には特に力を入れました。津波対策の象徴でもある巨大な防潮堤の前で記念撮影をしたときは、工事を共に進めてきた仲間たちと安全に作業を完遂できた喜びを分かちあいました。

都市計画を学びゼネコンへ安全を最優先に業務に臨む

土木工学を学んでいた学生時代のインターンシップで、道路工事の現場を経験しました。開通した道路が地域の人の利便性を高めることを肌で感じたことを覚えています。道路、トンネル、ダムや橋、みんな人の役に立つものを作ります。力を合わせてひとつのものを作る達成感は、他の仕事ではなかなか味わえないものだと思います。一方、工事は危険と隣り合わせ。絶対の安全はありません。その中で、作業員の安全を確保すること



が、J・V土木技術者である私の仕事です。重機と人が近寄りすぎないようバリケードを設置したり、通行量の多い道路に監視員をつけたりして、工事の安全を図りました。仲間から、1人のけが人も出さずにはいけないうえ、家族を悲しませるようなことがあつてはならない。そんな強い思いが、徹底した作業安全対策の根底にあります。



朝礼は作業員全員が参加。挨拶でみんなの気持ちをひとつにします

地図には残らないけれど、心に残る仕事がある

いま手がけているのは、貯水池の地盤改良工事。もうすぐ完了です。2万トンの淡水をたたえた池の周囲の元々の土とセメントを機械で混合し、安定した地盤を形成する工事。狭い現場で、大きな重機を自由に動かせないなど大変なことも多い工事でした。この現場で関わってきた仕事は、人々が安心して生活するために欠かせない、原子力発電所の安全対策ばかりです。大成建設のキャッチコピーは「地図に残る仕事」です。国際支店時代にUAEで高速道路建設に携わった時は、この言葉を実感しました。今回携わった地盤改良工事は、どんな地図にも残りませんが、地域の安全、そして笑顔につながる、という意味で、私の心に残る工事です。

Profile

田上義彦(たのうえ・よしひこ) 大分県出身。大成建設入社後は本社、関西支店、関東支店、国際支店、関東支店を経て6年前に北信越支店へ。東京電力柏崎刈羽原子力発電所の作業所に勤務している。長岡市内に単身赴任しており、愛妻と10歳、7歳の愛娘は千葉県に建てた新居に暮らしている。3年前には家族を柏崎へ招き、一緒に花火大会を見物した。趣味は写真撮影、テニス。



共に働く仲間たちと一緒に、完成した防潮堤の前で記念撮影

安全第一に、そして着実に。地域の笑顔につながる、大切な仕事。

1~4号機側 防潮堤の建設

柏崎刈羽原子力発電所の1~4号機を、津波による浸水から守る「防潮堤建設工事」。高台に設置された貯水池の周辺地盤を強化する「地盤改良工事」。これらの工事担当者として深く関わったのが、大成建設(株)北信越支店の田上義彦さんです。発電所構内にある柏崎刈羽原子力作業所を拠点に、J・V企業の他、地元企業を含むたくさんの方と共同で業務に邁進してきました。田上さんが担当した工事は、東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故を踏まえて進められている柏崎刈羽原子力発電所の安全対策工事の一環です。共に働く仲間の安全、そして地域の安全を守るために、強い責任感で業務に当たる田上さんに、安全への思いや仕事のやりがいなどについて伺いました。(2016年2月取材)

大成建設株式会社
北信越支店
柏崎刈羽原子力作業所
工事担当者
田上 義彦さん



全長1・5キロの防潮堤を2年半の歳月をかけて竣工
1~4号機側に設置した防潮堤1・5キロメートルのうち1キロは、海拔15メートルの高さの鉄筋コンクリート製の構造物です。福島第一原子力発電所の事故を受け、津波から発電所を守るための防潮堤を、大勢の仲間たちと一緒に造りました。大きな津波でも耐える頑丈な壁となるよう、地盤の改良からスタート。後から造る設備のため、どうしても既設の構造物と干渉するところがでてきます。その際は東京